

公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金 成果報告書

代表者氏名	勝谷紀子	所属	東京大学先端科学技術研究センター
研究会等名称	難聴者の心理学的問題を考える会		
成果概要	<p>1) 参加人数（会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください）</p> <p>会員 1名（うち認定心理士 1名） 非会員 5名（うち認定心理士 0名）</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 （実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください）</p> <p>本研究会では、聞こえや聞き取りに困難があるにもかかわらず、難聴に対する理解や配慮が十分ではないという現実から生じる心理学的問題について考え、難聴者に対する心理学的研究の方向を探ることを狙いとしている。研究会の主なメンバーは、障害児教育、知覚心理学、認知心理学、臨床心理学、発達心理学、社会心理学、特別支援教育、医学などさまざまな領域で難聴の研究をしている研究者、現場で活動をおこなう実践者、医療従事者である。</p> <p>今年度においても、難聴の問題に関心を持つ研究者や医療従事者、当事者と多様な難聴の問題について広く意見交換と情報交換をおこなうことを目的として、研究集会を実施した。具体的には、日本心理学会第87回大会において、公募シンポジウム「難聴とともに働く：職業選択・合理的配慮・キャリアアップ」を開催した。登壇者は、(企画者・司会者) 勝谷紀子 (話題提供者) 勝谷紀子、逢坂 希、熊埜御堂 浩、柴田 留理、正木 遥香 (指定討論者) 栗田季佳であった (敬称略)。</p> <p>このシンポジウムでは、難聴を抱えながらさまざまな分野の職業で活躍しておられる当事者の方々に話題提供をいただき、職業選択、合理的配慮、キャリアアップについての体験や考えをお話いただいた。指定討論では、職場での合理的配慮をいかにすすめるか、自分の特性を活かして職業キャリアを積み重ね、自分らしい職業生活を送るにはどうすればよいかなどの問題を指定討論者から提起していただき、多様な立場から多面的に議論した。助成金は、シンポジウムの動画に付与するリアルタイム字幕の作製のために利用した。研究会メンバーが登壇者となったために講師謝礼はかからず、オンデマンド形式での開催だったため講師交通費、資料製作・印刷費もかからなかったため、今年度は残額が発生した。</p> <p>これらシンポジウムの開催により、難聴者の就労やキャリアアップの問題について、有益な意見交換、情報交換を行うことができた。来年度においては、引き続き、難聴者の理解を一般に広く深め、よりよい支援を実現するために、学術大会でのシンポジウム等で広く周知し、難聴・難聴者についての啓発活動もおこなっていく。具体的には、聴覚情報処理障害を含む聞き取り困難症や希少疾患による難聴、聴覚過敏など多様な聞こえを持つ人々の理解や支援の問題をシンポジウムを開催して議論することなどを計画している。</p>		

(様式5)

2024年4月30日

日本心理学会研究会 2023 年度会計報告書

研究会名称 難聴者の心理学的問題を考える会

研究会番号 23023

助成金額 ¥30,000

年月日	項目	金額
2023年9月4日	UDトーク字幕配信（公募シンポジウムでのリアルタイム字幕）	¥22,770
2024年4月30日	返金（日本心理学会）	¥7,230
支出合計		¥30,000